

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 4 月 7 日

【評価実施概要】

事業所番号	2170800177		
法人名	有限会社 なないろファミリー		
事業所名	グループホーム 虹の里 伊自良		
所在地	山県市松尾344番地5 (電話) 0581-36-1020		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター ビーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年4月3日	評価確定日	平成20年5月23日

【情報提供票より】 (平成 20 年 3 月 1 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 10 月 7 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 1 人, 非常勤 12 人, 常勤換算	6 人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨ユニットハウス 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	9,900円～ 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(350,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	400 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 3 月 1 日 現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名
要介護3	2 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 81.1 歳	最低 67 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鳥澤医院、谷水歯科医院、黒野病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然豊かな場所にホームがあり、リビングからは緑あふれる木々や森を眺めることができる。ホーム前の畑では、利用者と職員が協力して様々な野菜を作り、収穫は利用者が行い「今日のは誰が取った野菜」と、談笑しながら食している。管理者と職員は、利用者を家族と思いながら心配りをしており、手打ちそばが趣味の職員による「そば振るまい」は利用者の楽しみにもなっている。看護師資格を有している職員が多く、入居期間が長くなり体調が不調になりがちな利用者のケアを医療面で支えている。重度化になってはいるものの、花見やいちご狩りなどの行事はできるだけ参加できるよう、管理者夫婦が情熱を持って配慮し、その考えに同意した開所当時から職員が熱い思いを持って日々支援をしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善課題である「地域密着型理念」「理念の共有」については職員間で話し合いを重ね、常に理念に立ち戻る意識の改善が図られた。「家族への報告」は個別便りを計画し、また、「職員育成の取り組み」の報告会に関しては勤務時間を調整して行い、回覧により共有を図る取り組みをしている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、全職員での周知・共有はされていないが、管理者・職員は評価の意義を深く理解しており、項目の一つ一つを日々のケアに活かし、更に向上に繋げて行きたいという真摯な姿勢で取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では、行政・協力医療機関医師・民生児童委員・自治会長・家族代表も参加し、まずホームを知ってもらうことから始め、この会議を通して地域の活動・住民協力にも繋げて行きたいと取り組んでいる。ホーム内でのおやつ作り・会食などを計画し、自然な形で運営推進会議に移って行けるよう、更に取り組みを進めていく予定をしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の訪問時に意見や要望を聞き、遠方の家族にはこまめな電話連絡で柔軟に対応している。苦情箱等の設置はないが、管理者・職員に家族が気軽に意見を言えるような雰囲気と関係を作っている。重度化と看取りに関しては、話し合いを重ね、利用者は勿論のこと家族の安心も得られるような配慮を行い、家族と利用者の心を共にサポートできるような体制作りをしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の祭りや住民による雪かきなど、ホームが自然な形で地域に受け入れられている。天候に合わせての散歩中には野菜をもらったり、高校生が友人と連れ立ってボランティアに訪れるなど、ホームが地域に溶け込んでいるのがわかる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ご利用者様と家族様のニーズを第一に、またご利用者の個性を大切に・・・」という理念に基づき、利用者は地域の中で穏やかに暮らしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は全職員間で見直しを計り、管理者と職員は常に理念に立ち戻るよう、確認をしながら日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地元の祭りに参加したり、ホームの敷地に子供みこしもやって来るなど、ホームの存在が地域に自然に溶け込んでいる。今後は、ホーム独自のイベントに住民を招くことができるような計画をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価はできることから改善を行うなど管理者・職員は評価の意義を充分理解しているものの、利用者の体調変化や日々のケアに追われ、今回の自己評価は全職員での周知・共有はされていない。	○	評価の結果を運営推進会議で報告するなど、全職員の自己評価とその過程を通じてより良い質の向上に活かされたい。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、3～4ヶ月に1度開催しているが、民生委員の交代時期も重なり、継続的な開催には繋がっていない。	○	評価結果の報告を土台にし、地域の応援体制・マンパワーの協力等も視野に入れ、様々な形でホームからの働きかけを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政に対しては困難事例や運営の相談をしているが、解決への道のりを共に担ってもらい、協働するには至っていない。	○	行政側にホームの実態や様子を深く理解してもらい、情報のやり取りなどを通し、地域に根付いた運営の実現をめざし、市との連携がより一層図られることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎週来訪する家族にはその都度報告したり、また、遠方の家族には電話などで柔軟に対応している。四季おりおりの行事案内を掲載したホーム便りを適宜発送している。また、利用者の日々の様子を、個別に報告できるような便りの計画もしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に積極的に意見と要望を聞き、介護計画に反映させている。家族等の要望が利用者の高齢化・重度化に伴い、対応困難な事例も出てきており、今後の課題としている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動・離職はなく、幅広い年齢層の馴染みの職員による日々のケアは、家族の安心感も得られ、利用者の心の支えにもなっている。利用者と職員が、共に生き、共に笑い、共に手を取り合う関係ができている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は勤務扱いで行い、その内容は参加職員から全職員に報告会で周知している。管理者が看護師であることから、感染症などの必要な研修は適宜に行っている。職員がストレスを溜めないよう、休憩時間の確保に配慮がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協議会に所属し、管理者同士が情報を共有するなど、自然な交流が行われている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居を利用しながら自然にホームに馴染めるよう工夫と支援がされている。家族も寝具を持ち込めば無償で宿泊ができ、利用者がホームに徐々に馴染むことができるような配慮を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居期間が長くなればなるほど重度になっている利用者が多いが、洗濯物たたみ・おしぼりたたみ、また、畑の収穫などを自分の役割として認識し、自発的に手伝いを行うことができるようにとの管理者の考えに沿い、支え合っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントや、入居後の日々のケアから拾い上げた気付きは記録に残し、職員が共有できる方法をとるなど、理念の通り、利用者の意向を第一に考えたその人本位の暮らしができるよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は家族の要望や職員・かかりつけ医の意見も取り入れ、一人ひとりの個性に合った介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、詳細な個別記録の記載事項も参考にし、急変時・必要時に柔軟に行い、その都度、家族の確認も得ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じた、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が希望する医師への受診は、基本的には家族が行っているが、必要時は職員や管理者が行っている。美容師資格を持った職員が利用者のカットを行っており、利用者の楽しみとなっている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が月に1～2度往診し、歯科・精神科への受診は家族やホーム側が同行している。かかりつけ医は運営推進会議の中で認知症理解を説明するなど、認知症を地域で受けとめることができるようにと医師の協力も得られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期の対応に関しては、入居の際に利用契約書で説明しているが、利用者の次々と変わる体調に柔軟に対応できていけるような指針と方向性がはっきりと明確化されていない。	○	今後、利用者の体調が低下することが予想できることから、再度、職員間で話し合いを重ね、重度化・終末期についての確認書を作成するなど、さらに、利用者と家族の安心を得られるような取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの個性を大切にし、理解を深めることにより、利用者の誇りを守り、思いやるような支援と対応ができています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体的に重度化になっている利用者が多いが、起床時間・就寝時間は利用者の意向とペースを大切にし、その日その時の必要な支援をしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の収穫・野菜のすじ取りなど、利用者のできることを把握しながら、共に食事の準備を行っている。また、おはぎ作りやいなり寿司を握るなど食事やおやつ作りも共に行い、職員は共に同じテーブルに着いて、談笑しながら食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、壁に張り出されている順番表によって利用者が自分で認識できる工夫を行い、季節を味わえるよう、しょうぶ湯・ゆず湯など香りを楽しみ、夜間はアロマオイルを入れた足浴を行うこともある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	車椅子の利用者が半数になっており、楽しみであった散歩の回数や出来る事が減ってきている。しかしながら、管理者が情熱を持って、花見やいちご狩りなどの行事はできるだけ参加できるよう配慮している。	○	役割、楽しみごと、気晴らしは生きることの喜びにも通じることから、利用者一人ひとりの変化していく状態にあった役割や楽しみの支援が出来るよう、生活を再度振り返って職員間で話し合い、その取り組みに期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の重度化に伴い、体調と天候に合わせての散歩は少なくなっているが、ホームの飼い猫も一緒に散歩に付き添い、神社コース・寺社コースと長短のコースが設定され、住民から干し柿や野菜を貰ったり、地域の人と利用者が笑顔であいさつを交わしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は職員のコマメな見守りによって施錠はされていない。出て行く人は「行ってくるよ」と声を掛け、外を満喫して帰って来ると「お帰りなさい」と職員が迎える。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署との連携による訓練は年に1回行っており、災害時の備蓄品も食品・飲料水と共に用意している。リビングには防空頭巾や非常持ち出し袋も準備されているが、日常の訓練に活かされていない。	○	現在行っている訓練に甘んじることなく、具体的な日常の避難策を検討し、また、地域に呼びかけ、共に訓練を行えるような努力を期待したい。また、災害時の避難場所・避難経路も家族に事前に知らせておく等、連絡方法などにも配慮されたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の利用者には病院から栄養指導があり、利用者一人ひとりの食事摂取量や水分量は個別に記録されている。ペースト状やとろみについては、今後、充分職員間で話し合いを重ね、検討していく計画がある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いリビングにはソファが置かれ、利用者がゆったりと過ごしている。廊下に並んだ居室へ誘導する手すりがほどよい高さに付けられ、洗面所も車椅子が入るスペースが設けられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内のベッドサイドにはマットを敷いたり、タンスに地震対策の突っ張り棒が付けられるなど安全面での配慮もされている。ベッドはホームから無償で貸し出し、タンスの上には家族の写真や手芸品が飾られるなど個性ある居室となっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。